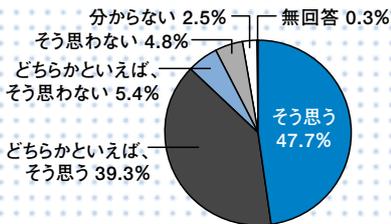


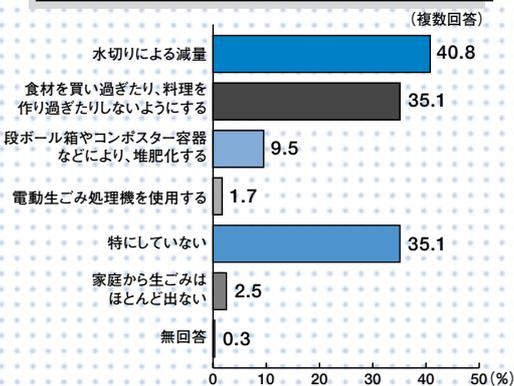
ごみに関する意識調査を行いました

昨年11月～12月に、ごみ減量や新ごみルールに関して、市民1,500人を対象に意識調査を行いました。その結果をお知らせします。

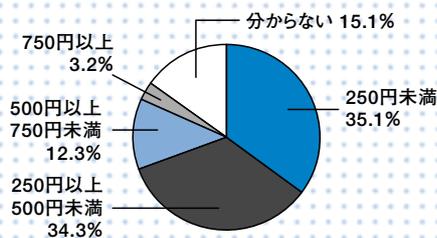
新ごみルール実施後、ごみ減量に対する意識は高まりましたか？



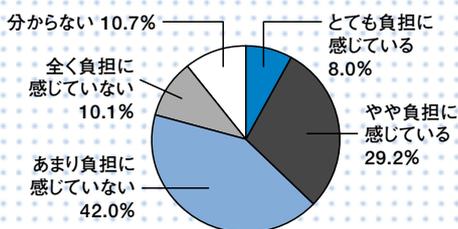
生ごみの減量について行っていること



1カ月当たりの指定袋に掛かる費用



ごみの有料化による負担感



布・紙

ティッシュを削減

食事のときには各自おしぼりを使うようにすることで、ティッシュの使用量を減らせます。(北区・長谷川鏡子さん・57歳)

不用な衣類を有効活用

Tシャツやタオルなどは使い捨てのぞうきんにリメイク。ティッシュの代わりとして使っています。(豊平区・川端麻美さん・48歳)

着なくなった子ども服は、友達同士で交換したり、保育園に寄付したりしています。(北区・橋本昭子さん・31歳)

→不用になったシーツを使ってぞうきんに。たくさん作れて経済的



2月号特集に アイデアを紹介 寄せられた

効果バツグン! ごみ減量法

その他

使う指定袋を一定に

月曜は1001袋、木曜は501袋など使う指定袋を決めると、袋に入り切るようにしようとするため、ごみを増やさないう意識が強くなります。(清田区・石原幸子さん・39歳)

必要な物だけ買う

必要な物だけ買い、不用な物は人にあげたり、お店に売ったりしています。(西区・桜井さん・34歳)

容器・包装にひと工夫

卵のパックはコーヒークップに押し込んでお湯をかけると、小さなボール状に縮まります。(北区・五十嵐桃生さん・44歳)

資源

果物・野菜のトレイは、外せるものは買い物の際に外して購入し、外せないものは後日、回収ボックスに入れていきます。(中央区・高久さん・31歳)

